

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年4月4日

【評価実施概要】

事業所番号	2292300049		
法人名	有限会社快明堂介護センター		
事業所名	グループホーム快明堂		
所在地 (電話番号)	富士市中央町1-10-12 (電話) 0545-51-0301		
評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成20年12月12日		

【情報提供票より】(20年11月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計9人	
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算 3人	

(2) 建物概要

建物形態	併設		改築
建物構造	RC造り一部鉄骨		
	5 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:2年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(11月22日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	61 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	久保田内科クリニック
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路に面したホームの前身は病院であり、通所リハビリテーション利用者の受け入れを継続するために改築し、平成19年に発足した。診察室等を改装した居室は、決して広くはないが、木目調の居心地良い空間づくりに配慮している。開設して1年余りであるが、管理者や職員が一丸となり、利用者本位のサービス提供に努めるために、職員研修にも力を入れている。常に利用者目線に立ち、意向や希望を叶えるよう検討も深めているので、今後も取り組みに期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初めての受審である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者・管理者・全職員で自己評価に取り組んだ。職員全員で自己評価したことで、ホームの必要性や目的を再確認する機会になった。今後もサービス提供にも活かせるようにと考え、積極的に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に開催している運営推進会議は、行政職員、民生委員、利用者家族、自治会役員、ホーム職員等が参加し、開催している。ホームでのサービス提供報告の他に、サービスの質の向上や認知症高齢者の支援方法に関することの検討等、活発に意見交換が行われている。オフィスビルが多い地域の中で、地域との連携を深める検討も行われ、今後の取り組みが期待できる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が、月に一度は訪問し、話し合いの場が持てるように、毎月の利用料を原則として現金で支払うこととしている。利用者の生活や健康状態を伝える他、家族からの意見や要望等を気軽に言える雰囲気づくりに留意している。家族から寄せられた意見や要望は、職員全体に伝え、情報の共有化にも努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地域行事に参加したり、ホームの役割や意義の理解を深めるために、積極的に地域住民に関わるように心掛けている。地域的に住宅が少なく、日常的な地域住民との交流の機会は多くはないが、気軽に立ち寄れる雰囲気作りに意識して取り組んでいる。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、利用者一人ひとりが本人らしく暮らすことができるような理念「ぬくもりある生活・安らぎのある毎日・穏かで実りのある毎日」を掲げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者と管理者及び職員は、朝と夕方の申し送り時やミーティングで話し合い、理念を共有している。また、利用者の望んでいることに応えられるように、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームとして自治会に加入し、行事等に積極的に参加している。地域行事の情報を積極的に収集し、利用者の生活に幅が持てるように努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	平成19年8月開設の新しいホームであり、今回が初めての外部評価となる。評価の意義を十分理解したうえで、運営者、管理者及び全ての職員で自己評価に取り組んだ。これまでの取り組みを真摯に振り返る有意義な機会としている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3か月に一度、市職員、民生委員、利用者家族、自治会役員、ホーム職員で運営推進会議を開催している。会議を通じて、認知症高齢者の理解を地域にどう深めるか等を協議し、今後もサービス向上に向けて会議を活かしていこうと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>定期的に行政と連携を図り、行き来する機会を設けている。市からの研修講師派遣依頼にも柔軟に対応し、日常的に気軽に話し合いができる関係を構築している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族が来訪する際には、利用者の生活状況等を詳細に伝え、家族との絆が絶えることが無いように配慮している。</p>	○	<p>利用者の生活が、定期的に伝えられるようにホーム便り等の作成の検討を期待する。</p>
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>不満や苦情の他、何でも相談できるような関係づくりを心掛けている。意見や相談は、内容を踏まえたうえで、全ての職員で共有できるようにしている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>認知症高齢者の特性をよく理解し、職員の離職や異動が無いように配慮している。併設のデイサービス事業所との日常的な交流もあり、利用者も職員と顔馴染みの関係となっている。開設以来、職員の異動や離職は無い。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>具体的な業務を通して、必要な知識や技術、姿勢を習得していくことを勧めている。また、月一回担当者を決めて内部研修を兼ねたカンファレンスを実施している。また、外部研修情報を職員に伝え、受講を積極的に促している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内のグループホーム連絡会に参加し、同業者と活発に交流を図っている。また、定期的に他ホームとの職員交流を行い、共に質の向上に努めている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の意向を踏まえ、サービスに少しずつ馴染めるように配慮している。利用者の状況や様子により、サービス提供方法を検討する等、一人ひとりに合わせた対応に留意している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の場であるということを全員で考え、朝夕の食事作りを一緒に行ったり、洗濯物たたみ等の家事を利用者も交えて行っている。できることはできる限り一緒に行うように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れ、利用者の会話や表情、行動から意向を把握できるように心掛けている。また、家族にも協力を得て、一人ひとりの思いや希望を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの思いや希望を反映した介護計画にできるように、日常的に関わる職員が計画策定に携わるような仕組みとなっている。日々の記録等からも実際のサービス提供に繋がられるように取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～6か月ごとの見直しを定期的に行っているが、毎月1回は職員間で確認を行うようにしている。また、変更が必要な状況となった場合には、速やかに変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者一人ひとりの希望や状況に応じて、併設のデイサービスやリハビリ施設も利用できるようにしている。また、家族の急な事情等での利用者の送迎なども柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が希望するかかりつけ医への受診支援を行っている。また、ホーム提携医に気軽に相談し、往診も依頼できるような関係を構築している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に利用者や家族の意向を把握し、終末期における看取りへの対応を行うようにしている。また、提携医と連携を図り、その際の体制も整えている。「ターミナルケア説明書」を作成し、内外に考えを示し、希望する家族からも同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳が損なわれることが無いように配慮した言葉掛けに留意している。職員間でも気になる場面では注意し合う等、プライバシーへの配慮にも心掛けていく。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが希望する生活を継続して提供できるように配慮している。また、生活歴や趣味、嗜好を把握し、充実した日々が送れるような検討も定期的に行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝・夕食は、職員と利用者が一緒に作っている。昼食は、2階のデイサービス利用者と同じものを食べているが、盛り付けなどを一緒に行い、職員も間に入り一緒に食事を摂るようにしている。さりげない気配りも行い、楽しい時間となるように心掛けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、利用者の希望に沿って入浴できるように配慮している。現在は殆どの利用者が14～16時に入浴している。また、身体的に重度の利用者は、デイサービスの機械浴槽も利用できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の楽しみごとの把握に努め、充実した日々が過ごせるように支援している。散歩を日課にしている人、縫い物の好きな人、読書の好きな人、花好きな人は水やり等、一人ひとりの希望に沿った一日を過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外出が気軽にできるようにしている。また、季節ごとの行事(桜の花見・御用邸の菊まつり等)も利用者の意向に沿って計画し、積極的に外出するようにしている。また、誕生日等の際に、外食機会を設けるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、一切施錠しないようにしている。一人ひとりの動きを職員が見守り、近隣住民も気軽に立ち寄れる雰囲気を作り、閉塞感のないよう配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に一度防災訓練を行い、地域住民の協力も得ながら具体的な訓練を実施している。近隣にはオフィスビルが多く、夜間の協力は期待できないが、住民に協力が得られるように呼びかけを行っている。	○	あらゆる場面を想定した定期的な訓練と、住民の協力やホームが地域に還元できることなど相互協力の構築に取り組まれることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食は2階のデイサービスと同じものを摂っているが、利用者の意向を踏まえた献立で食事提供を行っている。水分補給を確実に行うために、毎日健康チェックを欠かさない。また、看護師を配置し、医療的支援、健康管理と予防に努めている。	○	利用者の定期的な体重チェックや食事提供の際に参考となるように、カロリー計算なども定期的に行うことも期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間となる部分は道路に面しており、玄関ドアからは一日中、陽射しが入り込む。利用者が好んで過ごす居間は、季節の花が飾られ、心地良く過ごせる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室壁面も木質の内装で、落ちつける雰囲気のある居室である。利用者の意向に沿った居室作りに努めているが、使い慣れた家具類等の持ち込みが少なく、やや殺風景に感じられる。	○	今後も利用者・家族に協力を促し、利用者の好みに合う居室づくりを期待したい。